



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

『ギカイの時間』は、誰のため？

3月27日の広報広聴委員会で、自民党志清会のY議員から委員長の辻さんに委員長解任の動議が出された。その件で31日に会派代表者会議が開かれるというので傍聴に出かけた。

27日の委員会では、『ギカイの時間』に副市長選任をめぐる疑問を載せるか、補正予算の子育て事業の疑問を載せるかで、委員会の意見が半分に分かれた。辻さんは委員長として、全会一致で可決した補正予算の事業よりも、賛否の割れた副市長選任の疑問の掲載が妥当と判断をした。それに対する解任動議だった。

傍聴した会派代表者会議では、驚いたことに広報広聴委員会での議論の内容や動議に至る経緯が検討されることはなかった。自公議員は、委員会でよく話し合って折り合うべきと発言し、議長はそれができないようであれば委員の選び直しもあり得るとほめかけた。オブザーバーの辻さんの発言は再三拒否された。

その後開かれた広報広聴委員会では、冒頭でY議員から突然解任動議の取下げの発言があった。委員長解任という重要な動議を出しておいて、取下げ理由の確たる説明がなく、責任を感じている様子も見受けられなかった。その後の発言では、自公ともに副市長選任の掲載反対を変える気はない、自分たちの意見は変えないが、そこを合意させるのが委員長の役目だ、合意形成のできない責任は全て委員長にあると意味不明な主張を繰り返した。彼らの狙いは、議会で意見が対立する問題については『ギカイの時間』に掲載しないということのようだ（安保3文書の掲載で意見が割れた時も同じ）。



辻さんは、あきる野市議会基本条例に「議会の活動原則」として「論点、争点を明らかにするよう努める」と書かれていることを紹介し、各委員に再考を求めたが、彼らは全く耳を貸すことはなかった。

辻さん攻撃に終始した自公委員の発言は聞くに堪えなかった。傍聴していた私の目には辻さんの後ろにたくさんの方が見えたが、彼らの後ろには会派、党の意向しか見えなかった。（A・M 小川東在住）

議会傍聴雑感

3月議会を傍聴して感じた事として、まず、辻さんが一般質問で「子どもの居場所としての学校施設の活用について」4点の質問をされていましたが、市側の答弁を聞いている限りでは、どこまで本気で子どもの事を考えているのかなと感じました。

次に質問した野辺のミユキ組跡地の区画整理事業については、資料を議場のモニター画面に映し出し、より分かりやすく質問をされたことが印象に残っています。この問題については、第一に場所が秋川の河川敷の目の前で、2019年の台風の様な大雨になれば、浸水の危険性が大いに考えられる所であり、このような所に区画整理事業で大規模な宅地開発をすること自体、大いに問題ありと言わざるを得ないと思います。

最終日も傍聴しましたが、この日は、あきる野市議会の個人情報保護条例について、くさしぎ・共産党の条例案と自民党の条例案の2案が出されました。それぞれが討論した上で採決されましたが、自民党案が賛成多数で成立しました。議会の構成メンバーを見れば、それだけで自民党案が成立することが分かり切っている中で討論で、形だけ行ったという感じがしました。毎度のことですが、党利党略でやっていて、本当の意味で市民目線では見ていないという印象を非常に強く持ちました。（K・K 引田在住）

本気で取り組んでよ！ 「男女共同参画」「市民と協働」

2月、「都市計画マスタープラン」を最終決定するというので、都市計画審議会を傍聴した。

最初に「やっぱりね……」と思ったのが、審議会のメンバー。市議5人の他は、8人の委員(欠席2人)全員がスーツ姿のおじさんばかり。彼らは最後まで一度も発言せず、事務局の出してきた案に賛成したのだった。

そして驚いたのが、事務局のパブコメ(パブリックコメント)についての説明だ。曰く「計画を変えるべきという意見はなく、文章表現を変えれば済む」。

私はパブコメに意見を出したのだが、「半世紀以上前に作られた道路計画の見直し」「案に書かれていない性的少数者や在住外国人について」等々、文章表現の修正では済まないことを書いた。辻さんが委員として指摘しなかったら、パブコメに寄せられた市民の意見は黙殺されただろう。他の議員からも、もっと丁寧な扱いをするよう求める意見が出て、さすがに会長も、事務局に持ち帰って検討・整理し直すように指示したのだった。

「都市計画マスタープラン」というのは、どのようなまちづくりをするかという、大本の計画だ。そういうものにこそ、市が掲げている「男女共同参画」や「市民と協働」を生かさないとどうするのだ。

男女バランスや年齢バランスに配慮し、「障害」者や性的少数者、在住外国人等が参加するような会議で計画を進めることで、多様な視点から考えた、暮らしやすいまちづくりができるのだと思う。市政に関わる人たちの意識改革が必要ではないか。

(S・K 高尾在住)

無党派
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在8年目。常任委員会は環境建設委員会。広報広聴委員会委員長。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。

少子化対策、どの次元へ？

毎日のように耳にする「異次元の少子化対策」。少子化を食い止めなければ社会システムが成り立たなくなるとするのは、当然納得いく理由のようで、何かもやもやとしたものを感じます。

私は3人の子どもを育てる母ですが、「出産」「子育て」という極めて個人的な選択を政府が奨励するような風潮に違和感があるのです。今の時代、「社会のために」子どもを産む人はいないはず。「社会システムを維持するために少子化を食い止める」というのは本末転倒で、人口が減っても一人一人が希望を叶えて幸せに暮らすための社会システムを作るという方が正しい気がします。

もちろん、子育て支援はもっと必要でしょう。不安要素が取り除かれ、幸せに子育てできる見通しがあれば、出生率は自然に増加に転じるのではないのでしょうか。

私自身、初めての子育ての時には、自分が急に「社会的弱者」になったような気がしました。収入を増やしたくても仕事は限られ、公共の場所では気を遣い、子どもを抱えて思うように身動きできない…母親に負担が集中する現実は厳しいもので、日本社会の根底にある男女格差の不条理を折々に感じ、お陰様で強くなりました。世の中のお母さん達は、みんなそうだと思います。それで良しとするのではなく、お母さんの我慢で成り立つ子育てから、「お母さんだけ」が我慢しなくてもいい子育てに変えていくべきではないのでしょうか。100年かかるかもしれませんが。

(K・T 秋川在住)



「辻よし子と歩む会」

会員募集中！

年会費：1,000円(カンパ歓迎！)

郵便振替

加入者名 辻よし子と歩む会

口座番号 00140-9-430053

ゆうちょ銀行(店番)〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

当座 0430053

